



# 楠隼Letter

～ またるべき日のために ～

鹿児島県立  
楠隼中学校  
楠隼高等学校  
令和7年度

1月号



## 第 3 回 ト ッ プ リ ー ダ ー 教 室

本校の特色の一つである「トップリーダー教室」は、各学期に1回実施されています。毎回、各分野で日本を牽引されている方をお招きし、ご講演をいただいています。1月21日（水）に行われた3学期のトップリーダー教室では、立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授の戸谷洋志先生にご講演いただきました。

「当たり前を問い直す 哲学の視点から眺める世界」という演題のもと、哲学とは自分の行動がなぜ正しいと思えるのかを法によらずに説明する学問であると話してくださいました。戸谷先生は、「黄金律」「功利主義」「義務論」の3つについて説明し、生徒に質問を投げかけながら、その答えに対して、「なぜそう思ったのか?」、「では、このような場合はどうだろうか?」などと生徒たちと何度もやり取りをしていました。

また、ご講演の中では、様々な具体的事例が出されました。その中でも特に、漂流している船の中で起こった殺人事件「ミニョネット号事件」について、生徒たちは、犯人への処罰について一生懸命に考えて、その意見を積極的に発表する姿が印象的でした。事件の内容が衝撃的なものであったこともあり、生徒たちは、様々な視点から犯人への処罰を考えていました。最終的な結末を知った生徒たちは、声を出して驚いていましたが、こういった議論をしていくことこそが、「当たり前を問い直す」ことであると学ぶことができました。

様々な価値観を持つ人々が共生していく必要がある現代社会に生きていく私たちは、重要な決断に迫られたとき、何が正しいのか考え、他者に対して説明する能力はますます求められるようです。哲学とは、そうした決断の手助けをしてくれる学問であると戸谷先生は教えてくださいました。お礼の言葉では、高校2年生の吉川さんが、「ものの見方を応用することの大切さを学ぶことができ、大変有意義でした。」と述べました。

今回学んだことを、今後の学校生活や将来に生かしてほしいと思います。

